

14. 熊本大学薬学教育部改善計画書

領域	改善計画 (H27. 3. 31現在)	改善状況① (H27. 12. 1現在)	改善状況② (H28. 12. 1現在)
教育	<p>(2年間で改善する計画)</p> <p>平成26年度に、大学院生の定員充足率の向上に向けて、薬学教育部ウェブサイトリニューアルし、随時内容の更新を実施した。また、大学院の入試回数を増加するとともに、薬学教育部入試説明会において大学院の概要に加えて、研究内容を口頭およびポスターにて発表した。また、広報書籍「熊薬ものがたり」の改訂版およびニュースレターを出版するとともに、新聞・テレビ・ラジオ・SNSなどのメディアを活用し、広報の充実を図った。留学生数を増やすために、海外の大学を訪問するとともに、Webを活用した試験・面接を実施した。今後も広報活動を積極的に推進することにより、医療薬学専攻の定員充足率の向上に取り組む。</p>	<p>大学院薬学教育部の広報のため大学院説明会を6月に実施し、併せて薬学教育部の広報のためのリーフレットの作成に向けて教育委員会にて検討を行っている。</p> <p>博士課程教育リーディングプログラム(HIGOプログラム)の教育および広報活動について、積極的に推進してきたが、今年度初めてプログラム生の定員を充足したため、大学院教育の質の向上につながるが大いに期待される。</p> <p>また、大学院博士課程医療薬学専攻の学年進行の終了を機に、定員充足率の向上に向けた医療薬学専攻カリキュラム検討ワーキンググループを立ち上げ、社会・医療のニーズにマッチしたカリキュラムについて検討中である。併せて、創薬・生命薬科学専攻についてもカリキュラムの検証を今年度中に実施予定である。</p> <p>なお、医療薬学専攻(定員8名)の入試広報活動を積極的に推進してきた結果、平成27年度は8名が入学し定員を充足した。(H24:7名、H25:7名、H26:7名)</p>	<p>大学院学生定員の充足率の向上のため、ホームページでの周知、リーフレットの配付、大学院専攻の説明を積極的に行った。さらに、6月に本学部において大学院説明会を実施し、他大学学生の参加があった。それらの取組により、医療薬学専攻(定員8名)については、平成24年度から平成26年度までは7名入学であったが、平成27年度8名、平成28年度12名と入学者が増加し、定員を充足した。</p>
社会貢献	<p>(2年間で改善する計画)</p> <p>大学院薬学教育部を構成する教員が産学連携に取り組むための組織体制づくりに取り組む。</p> <p>また、新たにDDSフロンティアセンターを設置し産学連携部門を設け、創薬研究センターと併せて産学連携に取り組む。</p>	<p>大学院薬学教育部を構成する教員が産学連携に必要なレギュラトリーサイエンスに関する理解を深めるため、PMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)の講師を4名招いて特別講演会を開催した。また、12月14日に実施される医工連携フォーラムに多くの教職員・大学院生が参加予定である。加えて、さらなる産学連携の発展を目的としたグローバル先端健康科学研究棟の建物を概算要求する予定で、これに併せて各センターの見直しを行う。</p>	<p>平成28年10月及び11月の薬学部運営会議で薬学部の組織構想について検討を行った。3センター(附属創薬研究センター、附属育薬フロンティアセンター、附属薬用資源エコフロンティアセンター)及び生命科学研究所の天然物化学・創薬・育薬を専門研究分野との基幹5分野(遺伝子機能応用学、天然薬物学、製剤設計学、薬物治療学、薬剤学、薬剤情報分析学)を統合して、「自然共生型産業イノベーションセンター」へ改組し、基礎研究を発展させ、その研究成果をシームレスに社会還元するイノベーション推進体制へと平成30年度までに構築することを決定した。</p> <p>また、同センターにドラッグデリバリーシステム関連の創剤・臨床開発部門を32年度までに設置予定である。</p>
国際化	<p>(2年間で改善する計画)</p> <p>新たな取組として、ジョージア州立大学における海外ラボの開設、海外の薬用資源探索を通じた学術面での国際交流拠点の形成に取り組む。</p>	<p>大学院の国際化を発展させるため、ジョージア州立大学における海外ラボを開設し、また、ニューメキシコ大学とHIGOプログラムの海外インターンシップとの連携について現在検討中である。さらに、海外の薬用資源探索を通じた学術面での国際交流拠点形成に向けて、ミャンマーのパテイン大学とは大学間、スーダンのハルツーム大学およびカンボジアの国立保健科学大学とは部局間交流協定を締結予定である。</p> <p>平成27年10月にはフィリピン大学ロスバニョス校と大学間交流協定を締結した。今後、人獣共通感染症に関する研究にも重点を置き、学生を海外に留学させる予定である。なお、平成28年1月7日には本学で、「熊本薬学・獣医学国際シンポジウム2016」を開催する。</p>	<p>1)平成27年2月12日にジョージア州立大学内に共同研究ラボを設置し、研究者、大学院生の派遣により炎症に関する研究成果を上げることができた。さらに、この活動が、新たな頭脳循環プログラムの獲得に繋がった。</p> <p>2)スーダンとの交流協定を締結し、2国間の国際共同研究費の申請を行なった。さらに、共同研究センターの設置のための打ち合わせ、機器の設置の準備を行った。さくらサイエンスにより、フィリピン大学の教員および学生を薬学部にて研究教育の指導を行ない、密な連携体制を構築した。</p>